

「辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動」便り

二月四日の名護市長選は三四五八票差の差で稲嶺さんが敗れました。安倍政権は全力でこの選挙戦に介入し、すさまじい物量を投入してきました。公明党は前回の選挙では支持者に自主投票を委ねていましたが、今回は徹底した個別訪問で組織票をガッチリと固めてしまいました。その結果、全有権者の四四・四%が

期日前投票に行ったという前代未聞の選挙になったのです。投票した六十六%の人々が辺野古の基地に反対しているのです。

今、辺野古では連日三〇〇台を超えるダンプがゲートを通って行くと言われています。機動隊はゲート前で座り込みをしている人たちをけちらし排除して、二時間も困い込んで、ダンプは車列を組むこともなく通って行く。



「埋立反対」のバナーの上のシュリン

2・22要請行動

「沖縄の米軍基地負担軽減のため普天間飛行場の無条件撤去と辺野古新基地建設の中止、撤回を求めます」という文言で始まる要請書と「沖縄の問題は沖縄だけでない、日本全体で考えなければならない。暑いなか、寒いなか、雨が降るなか足を止め、署名していただいた多くの人々がいます。新たに署名4,483筆、総数77,270筆。沖縄に基地はいらないという思いが詰まっている」という署名を持って11名の人たちが近畿中部防衛局に要請行動に行きました。

「嘆かず、依存せず、できる限りのことを黙々と、淡々とやっていく」昨年四月、大浦湾でK9護岸のための石材投下が始まった時の目取真俊さんのことば(フログ「チョイさんの沖縄日記」より)があります。そして、「辺野古ゲート前のスローガンともいえる『負けな方法…勝つまでずっと

諦めぬこと』という言葉がもつ深みと重みに向き合うことが目の前にあり、問われている」と大阪行動のMさんは言う。「再来週は沖縄に行くから大阪行動は休むねん。あははん」とHさんが言う。「活動はほがらかに、しなやかに、したたかに」とOさんは言う。

編集委員 T

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！